



2011.9.5

No. 212

毎月5日発行 定価1部10円 (組合員の購読料は組合費に含む)
1996年3月4日第三種郵便物許可

MONTHLY

れんごう

北海道

<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者 村田 仁

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろビル6F TEL (011)210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

2012年度道政に関する「要求と提言」を提出

持続的な地域経済・社会の立て直しへ

連合北海道は8月12日、北海道に対し「2012（平成24）年度道政に関する要求と提言」を提出した。

冒頭、村田事務局長は、「北海道の景気・経済は依然として回復の兆しが見えない。厳しい雇用情勢と地域の過疎化が進む中で持続的な地域経済・社会をどう立て直すかが課題」と指摘した上で、「日本の経済構造が大転換期にある中、北海道が持つ資源と可能性を活かし、北海道の役割をしっかりと中央に発信出来る北海道になって頂きたい」と要望した。

これに対し高原副知事は「従前からの要望に加え、今年は大震災への対応や原子力、エネルギー問題等、喫緊の課題が多いように見受けられる。その中でも、外国人観光客の対応では高柳会長が黒竜江省を訪問された際に知事の親書をお持ち頂くなど、協力頂いたことに感謝申し上げます」と述べた上で、「汚染された稲わらなどが入らないような対応は済み、土壌の調査も行い、安全な北海道を今後ともアピールしていく。いずれにしても限られた予算の中で、厳しい雇用情勢など課題は山積し



ているが、今後も汗をかいていきたい」と回答した。

今回提出した要求と提言は、経済、雇用、労働条件、エネルギー、防災対策、医療・福祉、教育、人権・平和の8項目、108点に及び、各部局との交渉は9月下旬に予定している。

〈この記事のアドレス〉 http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2011081201_12doyousei.html

北海道統一代表団 延べ85名が参加

核兵器廃絶と恒久平和を願う2011平和ヒロシマ大会・ナガサキ大会

核兵器廃絶と恒久平和を願う2011平和ヒロシマ大会及びナガサキ大会が8月4日～9日の日程で開催され、北海道統一代表団（連合北海道・原水禁北海道・核禁会議北海道）としてのべ85名が参加した。

8月4日のヒロシマ大会で主催者挨拶にたった連合本部南雲弘行事務局長は、冒頭、福島原子力発電所の事故について触れ「一日も早い収束と、徹底した事故原因の究明の中で、国民の信頼回復につとめていかねばならない」と述べた。更に「日本政府は被爆国として、国是である非核三原則を堅持し、包括的核実験禁止条約（CTBT）の早期発効や「兵器用核分裂物質生産禁

止条約（FMCT・カットオフ条約）の交渉開始、平和市長会議が提唱する2020ビジョンの実現など核兵器廃絶の具体的な進展に向けた積極的な役割を果たすべき」とした。

「被爆者からの訴え」として、13才の時に爆心地から約2キロの場所で被爆した曾根薫さんが登壇し、当時の状況を語った。「当初は自分より後遺症に悩む人が沢山いると感じ語ることがしなかったが、高齢化が進みこのままでは被災者がいなくなる、ピカドンの恐ろしかった様子を話すことができなくなるの思いから語り続けている」と述べ、最後に「二度とあってはならない、二度と

くり返されてはならない。恒久平和を切に願うものです。」と結んだ。

8月7日のナガサキ大会で主催者挨拶にたった連合本部古賀伸明会長は、東日本大震災について「かつて経験したことのない複合型の災害」とし、ここでもやはり福島原子力発電所の事故について触れ「国内外の英知を結集し収束させなくてはならない。エネルギー政策については聖域無き検証をし、ゼロベースから再構築しなくてはならない。」と述べた。また、昨年のNPT再検討会議での「核兵器なき世界」に向けた最終文書が全会一致で採択されたことを受け、「核保有国が採択された行動計画を着実に実施するよう注視する必要がある」と語った。

構成詩「親子で綴る平和の願い」は、歌と朗読（被爆体験等）で一つの物語を構成しているもので、連合長崎構成組織の組合員、家族（親子）等を中心に結成された約100名の仲間によって披露された。参加者は強く胸を打たれ、恒久平和と核兵器廃絶への大きな思いを新たにした。

統一代表団は広島・長崎において平和シンポジウム・

ピースウォーク等に参加するなど、それぞれ学習を深めた。広島では北海道独自企画として原爆死没者慰霊碑への献花を、長崎では被爆地「淵中学校」への墓参りを行った。

参加者は今回の行動で得たものを今後の産別・地域での運動に生かし、連合北海道としても更に平和運動を推進していくこととする。

〈この記事のアドレス〉http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2011081101_peaceaction.html



全道総決起集会を釧路市で開催

在沖縄米海兵隊の矢臼別移転実弾演習反対

沖縄米軍の実弾演習北海道移転反対対策本部（連合北海道、北海道農民連盟）と釧根地協・釧路地区連合は7月31日、釧路市内において「在沖縄米海兵隊の矢臼別移転実弾演習反対全道総決起集会」を約500名の参加のもとで開催した。

矢臼別演習場における米海兵隊実弾射撃訓練は、沖縄の県道104号越え実弾射撃訓練の本土での分散実施の一環として1997年から実施されており、今年2009年以来2年ぶりの中止となったものの、昨年まで11回実施されている。

主催者を代表して挨拶をした連合北海道武田伸一副事務局長は、「沖縄の痛みの分かち合いの立場で移転訓練を甘受してきたが、沖縄と同質・同量の約束を反故し、演習の拡大を図ってきている。沖縄の痛みを解決する唯一の方法は、在日米軍基地の整理縮小と日米地位協定の抜本見直ししかない。今後も私たちはこのような

状況下での米軍の実弾演習に断固抗議し、中止を求める」と述べた。連帯挨拶として、連合本部から水谷雄二総合組織局長、民主党北海道からは岡田篤幹事長が出席。水谷総合組織局長は、「連合本部としても全国的な行動を展開し、粘り強く、精一杯運動を推進する」とし、また岡田幹事長も「危険の分散・拡大、演習の固定化は断じて認められない。連合とスクラムを組んで取り組みを進めていく」と力強く述べた。アピールを採択し、閉会挨拶に立った農民連盟山田委員長は「地域の畜産業を守るためにも連合北海道と共に今後も闘いを広げていく」とし、最後に釧根地協佐藤会長の力強い団結ガンバローで閉会した。

集会終了後、第2部として「在日米軍基地の整理・縮小の実現に向けて」と題し、沖縄国際大学前泊博盛教授より講演を頂いた。その中で①沖縄の現状②普天間問題の解決策③グアム移転問題④日米安保の必要性

⑤基地の整理縮小は可能か⑥整理縮小の課題について、基地経済の現状をからめ詳しく提起された。特に日米地位協定については、「不平等で不備があるだけでなく、それ自体が守られていない。米軍に対しては約束を守らないという前提で、セイフティネットを張らなくてはならない。来るたびに緊張感を抱かせる軍隊とはいったい何なのか？全国に散らばっても、沖縄

にいることには変わりはない。」と語った。

対策本部は、この全道総決起集会を機に、沖縄をはじめとした全国の仲間と連携し、在日米軍の基地縮小、日米地位協定の抜本的見直しの闘いを更に広げていく。

〈この記事のアドレス〉http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2011073101_yausubetsu.html



平成23年度北海道最低賃金改正に関する談話

事務局長 村田 仁

北海道地方最低賃金審議会は、8月10日午後、平成23年北海道の最低賃金を現行の691円から14円引き上げ、705円に改正することとした。

最低賃金法が改正された平成20年に、最低賃金と生活保護との乖離を5年以内で解消するとの方労使三者の確認に基づいて、毎年、引き上げに向けた審議を重ねてきた。

しかし、今年度は平成22年度生活保護水準の見直しに伴い、乖離額が26円から31円となったことや、東日本大震災の影響などもあり、2年で解消すべきか、3年ですべきか、審議会で激しいやりとりとなった。

労働側は、生活保護水準との乖離を早期に解消するよう求めつつ、これまでの合意であった残り2年での解消は最低条件であるとの姿勢を堅持してきた。

また、なお残される額についてもこれまでの経緯をふまえ、残り1年での乖離解消に最大限努めるよ

う主張した。

しかし、震災での経済への影響、中央最低審議会での公益委員見解などを考慮することも必要とし、14円の引き上げで結審された。

北海道の賃金構造は今回の最低賃金14円引き上げに伴い、影響率が10%超、パートに至っては26.7%と試算されているとおり、パートなど非正規で働く多くの人々が最低賃金に張り付いている。

非正規やパートで働く人の中には、主たる生計を担っている人が多いことや、将来を担う若年者が多く含まれてことなどから、最低賃金が生活保護費より下回る逆転現象の早期解消と、改正された最低賃金の履行確保は大きな課題となる。

最低賃金の大幅引き上げに向けて、今後も全力を挙げることとする。

以上

〈この記事のアドレス〉http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/danwa/2011081001_minimumwage.html

1,500冊
全道に
広がる!

マンガ『働く人たちのひみつ』 ～みんなを守る労働組合～

連合は、小学生向け学習教材「学研 まんがでよくわかるシリーズ 働く人たちのひみつ～みんなを守る労働組合」を結成20周年事業として発刊の協力をしました。すでに、全国すべての公立小学校と図書館に無料で送付しています。

本の内容が好評で全道各地からの問い合わせもあることから、連合北海道は全地協を通じ小学校や図書館以外の無料配布先を募集したところ、全地協より児童会館や児童館、学童保



育、小児科等々への配布の話があり、このたび集計したところ、1,500か所への配布が決まり随時お届けしております。地域での詳しい本の設置場所は最寄りの地協にお問い合わせください。

【斉藤勉非正規労働センター局長 コメント】

道内の大学、高校、中学卒の新規採用の方が入社後3年以内で退職する率は、残念ながら常に全国でトップクラスです。憲法では「働くことは国民の義務」となっていますが、働いている人たちが義務だけではなく、生活の為であったり、自己実現の為であったり、社会貢献の為であったり、いろいろな理由があって働いています。

「働くことの意味」を子供のころから学ぶため、是非、子供に薦めて欲しい一冊です。



9月の主な動き

イベントカレンダー

- 働く女性の集会
3日(土) 13:30/自治労会館
- 第4回最賃対策委員会
5日(月) 16:00/連合北海道会議室
- 「9.10世界自殺予防デー」周知街宣
7日(水) 12:00/札幌駅前
- 第24回中央執行委員会
8日(木) 13:30/総評会館
- 平和行動in根室
10日(土)～11日(日)/根室市
- 常駐者会議
14日(水) 10:00/連合北海道会議室
- 東北ブロック定期交流会
14日(水) 15:00/ロイトン札幌
- 第12回執行委員会
16日(金) 10:30/札幌ガーデンパレス

- 第48回地方委員会
16日(金) 13:30/札幌ガーデンパレス
- 第10回地協事務局長会議
16日(金) 16:00/札幌ガーデンパレス
- 渡島地協ユニオンアカデミー
17日(土) 13:00/道南労働福祉会館
- 金属機械部門連絡会
20日(火) 15:00～21日(水)/トヨタ自動車労組事務所
- 男女平等参画学習会
22日(木) 13:30/ポールスター札幌
- 幌延深地層研究監視連絡会
22日(木) 13:30/幌延研究センター
- 青年委員会産別・地区代表者会議
23日(金) 13:00/自治労会館

日本労働組合総連合会

連合が提起する
「働くことを軸とする安心社会」
ってどういうこと!?

人は働くことで人とつながり、
社会に参加できる。
その実感が日本に安心と活力を与えます。
連合は、働くことに最も重要な価値を置く
社会をめざしています。

連合会長 古賀 伸明

マンガの続きは、連合ホームページで!

<http://www.jtuc-rengo.or.jp>

「みんなで支えあう社会にしよう!」

